

PTA研修会を開催 子の心 親知らず それとも ~ 親の心子知らず ~

島根県済生会江津総合病院院長の堀江裕先生を講師に、吉中PTA研修会を1月25日(日)に実施しました。当日は大雪のため、堀江先生を出雲市駅まで送迎しての開催となりましたが、豪雪にもかかわらず、多数の保護者の皆様の参加を得て、有意義な講演会を実施することができました。

会場では、保護者と生徒、教職員の約130名が「私が子どものころ見た 坂の上の雲」と題しての講演に耳を傾けました。先生は吉田町上山の出身で、実家の話題が飛び出すなど、終始和やかな雰囲気の中で話を聴くことができました。参加者は、笑顔とともに自然に、日頃の自分を振り返り、見つめ直す貴重な一時を過ごすことができました。

演題の中にある「坂の上の雲」とは、司馬遼太郎の小説名で「目標」の意味で用いられていました。先生の、幼少期から現在(院長)までの生き方を話される中で、常に前向きで、目標を持つことの大切さを感じ取ることができました。



堀江裕先生の講演

PTA研修会

そして“子どもは何度も褒められたい”“子の心 親知らず”“親は仏を拝むふりをして子を拝む”などの語りから、子育てや親子関係の大切さを。“後輩の先輩に対する思いやり”“言葉の力”の話から、他者への思いやりや人間関係の大切さ、コミュニケーション能力の大切さを。“自分が自分を元気づける”“自分が自分を褒める”の話から、プラス思考と自尊感情の大切さを。“人生捨てるころなし”“あこがれを持つ”の言葉と「楽しいな堀江先生の大きな歌声」に、常に目標と自信を持ち、前向きで肯定的に生きる姿勢が大切なことを学ぶことができました。講演会の終了とともに、参加者の皆さんからは、感謝の大きな拍手が沸き起こりました。

ご多用の中、講演をいただきました堀江裕先生と研修部の皆様に厚くお礼を申し上げます。

経営改善アンケートから 教育は信頼と人なり ~ 家庭との連携を図る ~

私は、「生徒に夢や目標を持って」とよく話をします。では、校長の目指す吉田中学校とは！

生徒が通いたくなる学校
保護者が通わせたい学校
職員が勤めたい学校
地域から信頼される学校

本校では、学校経営改善に向けて、生徒・保護者・教職員の皆さんにアンケートを実施し、その結果を先日お知らせしました。まだ、お読みでない方は、是非ともご一読ください。

特に改善を要する事項として、「学校に行くのが楽しくない1名」「あまり楽しくない11名」があげられます。原因として、人間関係と勉強であることが教育相談のアンケートから分かりました。

次に「家庭との連携・協力」があげられます。

1学期は「良好」の方向に70%でしたが、2学期は55%と低くなりました。学校と家庭との連携・協力は、生徒の健やかな成長に必要不可欠であり、学校教育の基盤となるものです。



参観授業

学校・教職員は、この結果を謙虚に受け止め改善を図るよう努めなくてはなりません。

「教育は人なり」生徒を直接指導する教職員にとって、力量や人柄は、生徒一人一人の成長に大きな影響を与えます。学校は、この事をしっかりと認識し、教科指導や心の教育を推進します。そして、地域から信頼される学校づくりに努めます。

手作りこんにやく = 味 最高! =

1年生の家庭科で、「こんにやく料理」の調理実習を行いました。こんにやくをイモから作ることは初めての生徒ばかりで、食生活改善推進員8名の方に指導していただきながら、楽しく活動をしました。食生活改善推進員の皆さん、ありがとうございました。

メニューは、刺身こんにやく、さつま汁、炊き込みご飯、青菜のおひたしの4品で、味は最高でした。



1年生調理実習

日本地図を作った測量学者
映画 伊能忠敬 = 子午線の夢 =
 ~ 先人の遺業に「感動」 ~

日本で一番最初に、日本地図を作った人物として知られている伊能忠敬に関する映画「伊能忠敬 - 子午線の夢 -」を、1月19日(月)に吉中ランチルームで上映をしました。この映画鑑賞は、雲南市教育委員会が文化庁の「子どもの映画鑑賞普及事業」を活用し企画したものです。

伊能忠敬の業績については、小学校の教科書にも掲載されていますが、中学校では更に詳しく歴史の授業で学習をします。本校では、伊能忠敬に関する発展的な学習と共に、“夢”を“達成”へと導いた忠敬の生き様を生徒に知って欲しい。そして夢や理想・目標を持つことの素晴らしさを学んで欲しいとの願いをこめ、映画「伊能忠敬 - 子午線の夢 -」を教育委員会の支援を得て全校生徒が鑑賞しました。

伊能忠敬という人物(1745 ~ 1818)

伊能忠敬は、江戸後期の測量学者で、西洋の測量術を取り入れ、全国の沿岸を実際に測量し、日本最初の日本全図(大日本沿海輿地全図)を作りました。

1800年 忠敬 55歳の時、東日本の地図を作るという名目で、蝦夷地(北海道)に出発しました。最初は、地球の大きさを調べるのに必要な資料(長い距離)を得ることが主な目的でした。測量の方法は、歩幅が一定になるよう訓練をし、歩数で距離を計算(歩測)するというものでした。

3年後、忠敬は、東日本の測量を終え江戸に戻り、そして、半年後に精密な東日本の地図ができあがりました。これを見た幕府は、忠敬に九州、四国を含む西日本の地図も作成するよう命じました。それから十数年、忠敬は西日本の測量の旅を続けました。

そして1815年2月19日、最終測量地点の東京・八丁堀で忠敬は全ての測量を終えました。時に忠敬70歳。彼の測量は15年以上に渡り、日本全国を歩いた距離は35,000kmに達するといわれています。

忠敬は、東日本の測量後、目的であった地球の外周を計算しています。その距離は、現在の数値と1000分の1しか誤差のない正確なものでした。



生徒の感想より(一部抜粋)

・地図を作るために歩きつづけ、あきらめなかったところが、すごい人だと思った。僕も最後まであきらめず、勉強や部活を頑張りたい。

・自分の夢や目標を持ち進むことは、こんなにも自分を強くするんだと思いました。私も、自分の夢を早く見つけたい。

・忠敬さんの歩測での夢は、東北地方の地図だけでは満足せず、ついに日本全図を完成した。意志が強く、辛抱強い偉い人だと思いました。

地震に対する避難訓練を実施
生徒の表情 真剣そのもの
 ~ 火災に注意 火の元を確認 ~

1月15日(木) 生徒の防災意識を高めるため地震を想定した避難訓練を実施しました。この訓練では、揺れの効果音を放送で流し、地震の発生を知らせて訓練をしました。当初は、避難場所を校庭中央に計画していましたが、豪雪のために体育館に変更して実施しました。

生徒たちは、地震発生の放送と共に、火災を防ぐために暖房器具のスイッチを切り、一斉に机の下に潜り込み安全確保(第一次避難)に努めました。そして、揺れが収まった後、教職員による校舎内の状況を確認し、体育館に避難(第二次避難)をしました。

今回の訓練は、地震のため「昇降口やホールにガラスが飛び散り通行ができない」ことを想定し、避難経路を変更し生徒を体育館に誘導をしました。

昨年は、5月に中国四川省での大地震(犠牲者：約7万人)、そして6月には、岩手・宮城内陸地震が発生し、被害の状況が大きく報じられました。いっどこで発生するか分からない地震に、訓練に参加した生徒の表情は真剣そのものでした。



机の下に避難する生徒

地震発生時の対応ポイント

- ・あわてないで落ち着いて行動し、急いで教室から飛び出したりしない。火災の防止に努めると共に、ドアを開け出口を確保する。机の下で机の脚を持ち待機する。廊下等の場合、柱に身を寄せ待機。
- ・窓ぎわを避け、照明器具など落下物のない場所を選ぶ。カバン等で頭を守り低い姿勢で待機する。
- ・屋外では、瓦等の落下に注意すると共に、ブロック塀や建物から離れ、広い場所で待機する。

< 地震の発生状況 >

- 平成 5年(1993) 北海道南西沖地震
- 平成 7年(1995) 阪神・淡路大地震
(犠牲者：6,434人)
- 平成 12年(2000) 鳥取県西部地震
(鳥根県でも東部を中心に被害)
- 平成 13年(2001) 安芸灘芸予地震
- 平成 15年(2003) 宮城県北部 震源地地震
釧路沖十勝沖地震
- 平成 16年(2004) 新潟県中越地震
スマトラ沖大地震
- 平成 17年(2005) 福岡県西方沖地震
- 平成 19年(2007) 能登半島地震
新潟県中越沖地震
- 平成 20年(2008) 岩手・宮城内陸地震
岩手県沿岸北部震源地地震
中国 四川省大地震